

日産車体株式会社

2009年4月22日

日産車体九州、新工場の竣工式を実施

日産車体株式会社(本社:神奈川県平塚市 社長:高木 茂)の100%出資子会社の日産車体九州株式会社(本社:福岡県京都郡苅田町 社長:高木 茂)は、同日、日産自動車株式会社九州工場敷地内に建設中であった新工場の竣工式を実施した。



竣工式には、麻生 渡 福岡県知事をはじめ多数の来賓、施工関係者等が列席し、行われた。その後の直会で、日産車体九州の高木社長は「世界的な景気低迷の影響で、自動車産業も非常に厳しい状況が続いているが、この九州の新工場では『日本でのものづくりを追求し、グローバル展開する日産グループにおいて、品質、コスト、納期の総合力でベンチマークとなる工場、また、環境と働く人に優しい工場』を目指し、より効率的な生産体制を構築し、さらなる企業競争力の強化を図っていくとともに、地域との共生を図り、地域経済に貢献していきたい。」と語った。

新工場の規模については当初計画通り、約1,000名を予定している。既に約100名が新工場の稼働準備を行っており、今春地元から関係会社を含み30名が新入社員として入社、神奈川県の湘南工場で研修中である。今後、生産開始の状況に応じて順次増えていく予定である。

新工場では、6月から試作を開始し、今年の年末には「パトロール」の生産を開始する予定である。

当初計画していた「エルブランド」、「クエスト」については、今後の自動車の需要動向を見ながら2010年度の生産開始を予定している。

新工場の建屋面積は、75,500㎡で、車体工場、塗装工場、組立工場および事務棟から成っている。生産能力は年産12万台となっており、日産車体の特色である大型車から小型車まで様々なタイプの車両が同時に生産可能な「多品種混流生産ライン」となっている。

車体工程は、『シンプルでコンパクトな生産ライン』をコンセプトに、無人搬送車による部品物流の最適化や、ボンネットやドア部品の自動取付等を導入することで難作業を大幅に低減している。塗装工程では、『3C:Clean・Clear・Compact な生産ライン』をコンセプトに、環境に優しい水性塗料を採用し、VOC(揮発性有機化合物)排出量を削減するとともに、外観検査装置の導入等で自動化も推進した。また、組立工程では、『人にやさしい作業ライン及び効率の良い物流導線』をコンセプトに、無人搬送車による部品物流の最適化に加えて、昇降機能付きトリムラインの採用、無人搬送車による部品物流の最適化、重量物運搬時の助力装置の設置などにより、難作業を低減している。

さらに、工場全体でのCO₂排出量を削減するとともに、作業効率についても向上させるなど日産グループの中でもトップレベルの「環境と人に優しい」工場としている。

[日産車体九州(株)の概要]

- ・設立 2007年5月10日
- ・本店所在地 福岡県京都郡苅田町新浜町1番地3
- ・代表者 代表取締役 高木 茂(日産車体(株)代表取締役社長)
- ・資本金 1,000万円(日産車体(株)の全額出資)
- ・主な事業内容 自動車およびその部品の製造・販売

以上

[問い合わせ先]

日産車体(株)総務部総務グループ
電話0463(21)8001

URL: <http://www.nissan-shatai.co.jp>